

2023年度 国語入試問題

(2023年2月24日実施)

座席番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[注意]

1. 試験監督者の指示があるまで、問題冊子や筆記用具に触れないでください。触れた場合は、不正行為とみなすことがあります。
2. 試験中の使用が認められたもの以外は、すべてカバンに収納すること。使用用具は、黒鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り（手動式・小型に限る）とし、それ以外の使用は認めません。
3. 携帯電話、スマートフォン、イヤホン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダーなどの電子機器類は、必ず電源を切ってから、カバンに収納すること。
4. 試験開始の合図により、試験を始めてください。
5. 解答は、すべて「解答用紙」の所定の欄に記入すること。
6. 試験終了の合図とともに直ちに筆記用具を置いてください。試験終了後に解答用紙や筆記用具に触れた場合は、不正行為とみなすことがあります。試験監督者が指示するまで、絶対に席を立たないでください。
7. 問題冊子および解答用紙は、試験終了後にすべて回収するので、持ち帰ってはいけません。

問題Ⅰ

次の文章は、高階秀爾『バロックの光と闇』の一部で、十六世紀末から十八世紀初めまで西欧で展開されたバロック美術とその画家について述べられている。これを読んで、後の問いに答えなさい。

今日でもそうであるように、髑髏は昔から死のシンボルであった。ステーンウェイクの画面がこの世の「空しさ」を表わしているのは、他ならぬこの「死」の存在故である。画面にはその他に、高価な時計と凝った造りのランプが見えるが、これも「死」と関係が深い。古来、死神は、いつも大鎌と時計を持ち物としていた。鎌はいうまでもなく生命を「刈り取る」ためである。後にゴッホは、麦を刈る人の姿に死神の影を読み取っている。時計の方は、人間の（そしてもちろんあらゆる生物の）寿命が限られていることを示す。ただし、ルネッサンス以降、西欧世界においてしばしば描かれた「死神の時計」は砂時計であったが、ここでは、最新式の機械仕掛けによるクロノメーター（注2）が置かれている。

I
ランプも、ここでは「死」の象徴である。ランプが、というよりも、灯の消えたランプがそうである。よく見ると、画面のランプの火口からうつつすらと白い煙がたちのぼっている。生命の灯が今ちようど消えたことをそれは物語っている。つまり、ステーンウェイクの《ヴァニタス》の画面を支配しているのは、個々の事物の確固とした実在感にもかかわらず、それらすべてを否定する不気味な「死」の影なのである。その意味で、この作品は、中世以来の「メモント・モーリ（死を思え）」の系譜に連なるものと言うことができるであろう。

II
スペインの画家ファン・デ・バルデス・レアルの《虚栄の寓意》も、画面が一見雑然とした感じだが、基本的にはやはり死の影に支配された「ヴァニタス画」である。そこには、宝石や金貨などの富の象徴をはじめ、地上の権力を表わす王冠や王笏（おうぎやく）、知識と学問を意味する書物や定規など、この世の価値を示すさまざまなものが置かれているが、それらはすべて不気味な髑髏によって否定されている。その髑髏に橄欖（かんらん）の葉の冠がかぶされているのは、まさしく死の勝利の表現にほかならない。時計と灯の消えた蠟燭（ろうそく）も登場している。それに加えて、髑髏の上にシャボン玉を吹く子供の姿が描かれていることが、（1）画面の意図をいっそう明確に伝えてくれる。シャボン玉は、バロック時代に好んで取り上げられた（2）モチーフで、「はかなさ」のシンボルだからである。そして画面の上の方では、天使が垂幕（たれまく）を開いているが、その奥に見えるのは「最後の審判」を描き出した絵である。「メモント・モーリ」のもつ宗教的意味が、ここではきわめて明確に図像化されているのである。

III
現世の栄光と対比されたこのような死への想念は、静物画にしばしば表現されているが、風景画においても同様に見ることができるとしては、デトロイト美術館にあるヤコブ・ファン・ライスダールの《ユダヤ人墓地》を挙げることもできるであろう。それは、阿姆斯特ダム近郊、アウデルケルクのユダヤ人墓地を描き出したもので、一見ごく普通の風景画のように見える。だが嵐を孕んだ不気味な空の雲、背景に聳える亡霊のような廃墟（はいきょ）の建物、手前の枯れて倒れた木などは、すべてがいずれば亡びゆき、朽ち果てるものであることを語っている。何よりも、中心の主題である墓地がそうである。その意味では、この見事な風景表現も、もうひとつの「死を思え」の寓意画

にほかならないのである。

IV

しかし、バルデス・レアールの《虚栄の寓意》において、死への想念の背後に「最後の審判」の場面が提示されていたように、ライスダールのこの作品でも、ただ死のみが跳梁ちやうりやうしているのではない。空にかかる虹は再生を象徴し、画面の右手の方では、枯れた樹木と豊かな葉叢はむらを茂らせる樹木が[A]に描かれていて、やはり死の後の生命の甦よみがえりが[B]されている。人は死に、人の造つた建物は亡び去るが、自然は永遠に死と再生を繰り返すという汎神論的世界観が、そこには表現されている。

このように、眼めに見える現実の対象と、眼に見えない抽象的、超越的世界とをひとつに重ね合わせ、描き出す表現は、「死」への想念のみにかぎらず、バロック絵画においてはしばしば見られるところである。 [V]

例えば、ルーヴル美術館にあるボージャンの《チェス盤のある静物》は、別名また《五感》としても知られている。それは、人間の五つの感覚を表わしたものである。すなわち、楽器と楽譜は聴覚、パンと葡萄酒ぶどうは味覚、(a)サイフ、トランプ、チェス盤はいずれも直接手で触れるものであるから触覚、花は嗅覚、鏡は視覚をそれぞれ示している。もちろんそれは、厳しい構成的秩序と丹念な細部描写による見事な静物画でもあるのだが、そこに五感が表現されているとしたら、その隠れた主題は、人間そのものというべきであるかもしれない。

同ジルーヴル美術館 (b) ショゾウのル・シユウールの《友人たちの集い》は、五感表現のもうひとつの例である。これも表面的には、題名通り親しい仲間たちをひとつの画面に集めた集団肖像画だが、同時に五つの感覚の表現でもあることは、容易に見てとれるであろう。あえて蛇足の説明を加えるなら、犬は嗅覚の象徴としてしばしば登場してくるものであるし、画面の右端で華やかな模様の垂幕の手触りをたしかめている人物が、触覚を表わしている。

平凡な日常生活の一齣ひととせを描き出した風俗画も、(3)この点においては例外ではない。フェルメールをはじめ、多くのオランダの風俗画が寓意的、あるいは教訓的意味を秘めていることは、しばしば指摘される通りだが、ここではやや特異な例として、フランスのル・ナン兄弟の《農民の食事》を挙げておこう。

[ア]、(4)ル・ナンの残した数多くの農民画を、単純に「風俗画」と規定することにはいささか問題が残るかもしれない。鋭い観察力と入念な筆致によるその表現は、[イ]バロックの写実主義の最も優れた例といってよいものだが、それらの作品がはたして当時の農民たちの姿をそのままに写し出したものであるかどうかについては、いくつかの異論が出されているからである。

[ウ]、ある美術史家は、ル・ナンの「農民たち」のある者が、当時の貧しい農村の状況から考えてあまりに上等な服装をしていることから、彼らはむしろ、当時ようやく豊かな経済力を持つようになった新興都市民が農村に購入した自分たちの農場を訪れているところ、つまり市民たちの余暇生活の表現ではないか、という解釈を提案している。また、当時盛んであった在俗の宗教団体の、農村におけるジ(c)ゼン活動を表わしているのではないかと主張する研究者もいる。いずれの場合でも、描かれているのは「農民たち」ではなくて「市民たち」だろうというわけだが、たとえそうであった

としても、そこに、農村での生活情景の一場面が描き出されていることはたしかである。

ただル・ナンは、これらの「農民たち」を描くにあたって、オランダやフランドルの農民画家たちのように、農民を戯画化したり、その(d)ヒゾクさを強調することなく、重々しいまでに落ち着いた静謐な雰囲気ひびの農民像を創り上げた。抑制のきいたその堂々たる姿は、ほとんど古典的な威厳を示しているといってもよい。食事をするというきわめて日常的な営みも、ここではほとんど聖なる儀式を思わせる。事実そこには、キリスト教の聖餐せいさんのイメージが重ねられている。画面において、パンと葡萄酒が特に強調されていることも、この結びつきを裏付けるものであろう。

ル・ナンと同時代のフランスの明暗表現の(e)キョシヨウジュールジュ・ド・ラ・トゥールの《大工の聖ヨセフ》の画面にも、Cが見事に重ね合わされている。従来の宗教画に見られる伝統的な微や約束事に基づく表現がまったく登場してこないこの作品は、何気なく見れば単なる普通の職人仕事を描き出しただけのものには見えない。それが「聖ヨセフ」を描き出した宗教画でもあることを保証するものは、画面全体を支配する敬虔けいけんな静けさのほかに、大工が今熱心に作りつつある対象が、まさしく十字架のかたちを示しているという事実である。超越的世界に属する聖なるものは、現実の人間世界にまで降りてきて、この慎ましやかな職人の仕事場にはいり込んでいるといってもよいのである。

(注1) 画面……本文の前に提示された《ヴァニタス》という絵画を指し、そこに描かれた内容に関する記述が続いている。

(注2) クロノメーター……携帯用のぜんまい時計。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

- (a) 1、(b) 2、(c) 3、(d) 4、(e) 5。

(a) サイフ 1

- ① 配偶者のフヨウに入る。
- ② 海外へのフィンが決定する。
- ③ 二人の話がフゴウする。
- ④ 恩師のフホウを受け困惑する。
- ⑤ よくない噂がルフする。

(b) ショゾウ 2

- ① ショアクの根源を断つ。
- ② 責任のショザイを明確にする。
- ③ 物事のタンシヨを開く。
- ④ モウシヨが続いて体にこたえる。
- ⑤ ショム課へ異動となる。

(c) ジゼン 3

- ① ザゼンを組んで心を静める。
- ② 倉庫をシユウゼンする。
- ③ 人口のゼンゾウが読み取れる。
- ④ 両者の関係をカイゼンする。
- ⑤ 仏壇におゼンをお供える。

(d) ヒゾク 4

- ① 台風が大きなヒガイをもたらした。
- ② それはあまりにヒレッツな振る舞いだ。
- ③ 首相がヒジヨウ事態宣言を出した。
- ④ 彼は罪状を最後までヒニンした。
- ⑤ 沿岸の町にヒナン勧告が出された。

(e) キョシヨウ 5

- ① メイシヨウの作品に触れる。
- ② 機体のソンシヨウが著しい。
- ③ シヨウガク金に申し込む。
- ④ 歴代から伝わる家業をケイシヨウする。
- ⑤ 部長にシヨウカクする。

問2 次の文は本文の一部である。どこに入れるのが最も適当か。本文中の ～ の中から一つ選びなさい。解答番号は、。

だがもちろん、意味するところは同じである。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

問3 傍線部(1)「画面の意図」とあるが、これを具体的に説明した次の文の にあてはまるように、四十五字以内で説明しなさい。解答番号は、。

画家はこの画面によって、 という

人間の生のありようを示そうとしている。

問4 傍線部(2)「モチーフ」の、本文における意味として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、。

- ① 絵画創作の動機となる題材
- ② 絵画が有している時代性
- ③ 絵画の価値を高める図像
- ④ 絵画に秘められている意味
- ⑤ 絵画創作の意図を伝える事物

問5 空欄 ・ に入る最も適当な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、A 、B 。

- | | | | | |
|---|---------------------------------|-------|-------|-------|
| A | <input type="text" value="9"/> | ① 比喩的 | ② 抽象的 | ③ 象徴的 |
| | | ④ 対照的 | ⑤ 類似的 | |
| B | <input type="text" value="10"/> | ① 明示 | ② 表示 | ③ 提示 |
| | | ④ 顕示 | ⑤ 暗示 | |

問6 傍線部(3)「この点」とあるが、この内容の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、11。

- ① 様々な感覚に訴えかける描写によって、人間の生のありようを印象的に描き出している点。
- ② 人間の眼前に存在する対象と、観念的、超越的世界とを重ね合わせて描き出している点。
- ③ 寓意的、教訓的意味を込めた描写を重ねていくことで、世界の複雑さを描き出している点。
- ④ 自然の風物や様々な事物の描写を通して、現実世界のありようを鮮やかに描き出している点。
- ⑤ 平凡な日常生活と、超越的、宗教的世界とを対比させるようなかたちで描き出している点。

問7 空欄 ア ウ に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、12。

- | | | | |
|---|--------|--------|-------|
| ① | アⅡならば | イⅡおそらく | ウⅡつまり |
| ② | アⅡしかし | イⅡまさしく | ウⅡつまり |
| ③ | アⅡもつとも | イⅡまさしく | ウⅡ例えば |
| ④ | アⅡならば | イⅡおそらく | ウⅡ例えば |
| ⑤ | アⅡもつとも | イⅡまるで | ウⅡしかし |

問8 傍線部(4)「ル・ナンの残した数多くの農民画を、単純に『風俗画』と規定することにはいささか問題が残るかもしれない」とあるが、このような疑念が生じるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、13。

- ① ル・ナンの農民画は、他の多くの風俗画が有していた寓意的、教訓的意味を秘めてはいないから。
- ② ル・ナンの農民画は、宗教的色あいがあまりに強く、風俗画とは言えないものになっているから。
- ③ ル・ナンの農民画は、風俗画のレベルを超越した、鋭い観察力や入念な筆致をもつものだから。
- ④ ル・ナンの農民画は、当時の農民たちの生活をそのまま描いたものではないという解釈があるから。
- ⑤ ル・ナンの農民画は、実は農村ではなく、新興都市のありようを描写したものだと考えられるから。

問9 空欄 C に入る最も適当な言葉を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

14。

- ① 日常と想像上の日常
- ② 豊かさと貧しさ
- ③ 現実性と宗教性
- ④ 農民たちと市民たち
- ⑤ 神聖さと慎ましやかさ

問10 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

15。

- ① ステインウェイクの《ヴァニタス》には、人間の寿命に限界があることを示す砂時計が描かれている。
- ② レアールの《虚栄の寓意》には、子供の無垢^{むく}さや無邪気さの象徴としてのシャボン玉が描かれている。
- ③ ライスダールの《ユダヤ人墓地》には、人間も自然も有限な存在であることが象徴的に描かれている。
- ④ ボージャンの《チェス盤のある静物》には、五感それぞれにつながる様々な人間の振る舞いが描かれている。
- ⑤ ル・ナン兄弟の《農民の食事》には、他の農民画家には見られない、威厳のある農民像が描かれている。

問題Ⅱ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本人が最初に漢字と(a)ソウグウしたのは、筑前国(現在の福岡県西北部)の志賀島から出土した、あの「漢委奴国王」という金印であり、銅鏡に刻印された呪文のような漢字群でした。これを初めて見た日本人(倭人)たちはそれが何を意味しているかなどまったくわからなかったにちがひありません。しかし中国は当時のグローバルスタンダードの機軸国であったので(このグローバルスタンダードを「華夷秩序」といいます)、日本人はすなおにこの未知のプロトコル(譯)を採り入れることを決めた。

ところが、最初こそ漢文のままに漢字を認識し、学習していったのですが、途中から変わってきた。日本人はその当時ですでに一万〜二万種類もあった漢字を、中国のほとんどの発音に倣って読むだけではなく、縄文時代からずっと喋っていた自分たちのオラル・コミュニケーションの発話性に合わせて、それをかぶせるように読み下してしまったのです。

私はこれは日本史上、最初で最大の文化事件だったと思っています。日本文明という見方をするなら、最も大きな文明的イベントだったでしょう。ただ輸入したのではなく、日本人はこれを(1)劇的な方法で編集した。

漢字の束を最初に日本(倭国)に持ってきたのは、百済からの使者たちでした。

応神天皇の時代だから四世紀末か五世紀初頭でしょう。阿直岐が数冊の經典を持ってきた。当時の日本は百済と同盟関係になるほどに(b)シンコウを深めていました。

阿直岐の来朝からまもなく、天皇の皇子だった菟道稚郎子がこの漢字に関心を持ち、阿直岐を師と仰いで読み書きを習いはじめました。これを見た応神天皇が、宮廷で交わしている言葉を文字であらわすことに重大な将来的意義があると感じて、阿直岐に「あなたに勝る博士はおられるか」と尋ねたところ、「王仁という秀れた者がいる」と言います。さっそく使者を百済に遣わしてみると、王仁が辰孫王とともにやってきた。このとき『論語』『千字文』あわせて一一巻の書物を持ってきた。この『千字文』というのは、たいへんよくできた漢字の読み書きの学習テキストです。私も父に教えられて書の手習いがてら、いろいろ学びました。

王仁は「書首」の(c)シソとなります。その後も継体天皇七年のときに来朝した五経博士の段楊爾、継体一〇年のときの漢高安茂、欽明一五年のときの王柳貴というふうには、何人もの王仁の後継者が日本に来ました。

このことは、見慣れない「文字」とともに「中国儒教の言葉」がやってきたことを意味します。そうして朝廷に中国語の読み書きができる人材がいよいよ出現してきたのです。

それなら、こうした外国語学習ムーブメントが日本の中に少しずつ広まって、みんなが英会話を習いたくなるように、やがて中国語に堪能な日本人(倭人)がふえていくはずですが、実際、たしかにそういうリテラシーの持ち主はふえたのですが(貴族階級や僧侶に)、だとすれば今日の日本人が英会話をし、英語そのままの読み書きができるのと同じように、多くの日本人が中国語の会話をするようになって当然だったのですが、そうはならなかった。

中国語をそのまま使っていくのではなく、漢字を日本語に合わせて使ったり日本語的な漢文をつくりだしたりした。まさに文明的な転換がおこったのです。

『日本書紀』の推古天皇二八年（六二〇）に、聖徳太子と蘇我馬子が『天皇記』と『国記』の編述にとりくんだという記事があります。どんな人物が筆記したのかはわからないのですが、一八〇部をつくり、臣や連、伴造や国造に配る予定でした。

このとき、おそらく中国語ではない「中国的日本語のような記述」が誕生したのだらうと思います。いわばチャイニーズ・ジャパニーズです。ただし、この『天皇記』と『国記』は乙巳の変（大化改新）のとき、蘇我蝦夷の家とともに焼けてしまった。

まことに残念なことですが、さいわい天武天皇のとき（六八二）、川島皇子と忍壁皇子が⁽²⁾勅命によつて『帝紀』と『旧辞』を編纂することになりました。これは天皇の系譜を綴った皇統譜とその関連語彙集（ボキヤブラリー集）のようなもので、日本各地の日本人の名称や来歴が記録されたのです。まさに産土にもとづいた記録です。

当然、漢字ばかりのものです。ア、これも中国語ではない。イ チャイニーズ・ジャパニーズっぽいものでした。ウ このとき、この中身を稗田阿礼が誦習して半ばを暗記した。稗田阿礼という人物はまだ正体がわかっていないので、ひよっとしたら一人ではない集団名だったのかもしれません。日本語として誦習した。

ついで和銅四年（七一二）、元明天皇は太安万侶に命じて『古事記』を著作させました。目的は「邦家の経緯、王化の鴻基」を記しておくことです。ここでついに⁽³⁾画期的な表現革命がおこりました。

太安万侶は稗田阿礼に口述させ、それを漢字四万六〇二七字で『古事記』に仕上げるのですが、表記にAの工夫をほどこした。漢字を音読みと訓読みに自在に変えて、音読みにはのちの万葉仮名にあたる使用法を芽生えさせたのです。

これはそうとう画期的なことでした。表記上で画期的だっただけでなく、日本人が縄文以来つづけてきた言葉を「漢字の声」であらわすことができたということが、さらに画期的なのです。私たちは漢字を見ても、日本語の声で読めるようになったのです。

たとえば「大」という字を音読みすると「ダイ」になるのは、もともと中国でこの字を「ダイ」と発音していたことにもとづいています。近似音でダイにした。しかし日本人は「大」を自分たちの古来の言葉であった「おお」「おおし」「おおき」などの言葉に適用するために訓読みもするようになり、さらに音読みと訓読みを平然と使いわけるようにさえなっていたのです。「生」はシヨウ（一生）ともセイ（生活）ともキ（生蕎麦）とも読み、かつ「いきる」「うまれる」「なま」（生ビール）なども読んだのです。まことに驚くべきことです。

自分たちの発明した漢字をこのように使えることは、中国人にとっては予想もつかないことでした。私たちは中国というグローバルスタンダードを導入し、学び始めたその最初の時点で早くもリミックスを始めていたのです。

かくて、ここに登場してきたのが日本独自の「仮名」でした。万葉仮名は真仮名、真名仮名、男仮名というふう発展し、ここで女たちがこれらを学びつつ変化させて、いわゆる「女文字」として柔らかな仮名にしました。「安」は「あ」に、「波」は「は」に、「呂」は「ろ」になったのです。

いったん仮名になると、「あ」には「安い」という意味はなく、「は」には「波」という意義はありません。日本人はオリジナルの「B」をもったのです。そして、これによって「漢字仮名まじり文」という発明をしでかした。まるで英文の中に漢字や仮名をまぜたような文章をつくりだしたのです。

まことに大胆で、かつ (d) センサイなジャパン・フィルターが作動したものです。できあがった仮名文字は真仮名に対して「平仮名」とも呼ばれます。晩年に日本国籍をとったドナルド・キーンは「仮名の出現が日本文化の確立を促した最大の事件だ」と述べました。その通りです。

中国のオリジナルに倣い、それらを学びながらも、自在なりミックスを行うという (4) 日本に特有なグローバルスタンダードの受け入れ方は、七世紀から九世紀にかけて行われた遣唐使においてとくに顕著にあらわれます。

日本は唐に使節を派遣することで、グローバルスタンダードの数々の制度や文物を持ち帰り、それによって建築技術、仏像技術、造船技術などをマスターします。けれども、いつしか建具や仏像などにおける組み木細工や寄木造りなどを編み出すことになった。もしそうでなかったら、日本の家屋はみんなチャイニーズ・レストランのようになっていたでしょう。技法だけではない。大秦広隆寺の優雅でアンニュイな弥勒菩薩像に見られるように、中国的な仏像のイメージを離れることもやってのけた。イメージにもジャパン・フィルターが機能していったのです。

もちろん中国のグローバルスタンダードをそのまま使うこともありません。大極殿や禅宗建築はそれに近い。大極殿は朝廷の公式裁定をするところですが、これは瓦屋根でスレート敷きで、柱には朱色などの極彩色をほどこし、沓を履いたまま登壇します。けれども朝廷は大内裏の中に大極殿や朝堂院を建造するとともに、その敷地内に必ず和風の紫宸殿や清涼殿もつくったのです。(e) ヘイセツしなのです。こちらは檜皮葺きの白木造りで高床式、沓を脱いで上がります。

すなわち内裏では「C」が両立していたのです。これはダブル・スタンダードとも言えますが、私は「デュアル・スタンダード」を意図したと考えています。デュアルとは「行ったり来たりできる」ということ、また「双対性」を活かすということです。日本人はこのことをとても重視したのですが、それがどんなものであったかは、のちにいろいろ説明します。

ともかくもこうして、和漢の相違の共存と変換を仕組んだことが漢風文化と国風文化という対比を形作っていくことになるのです。

(松岡正剛『日本文化の核心 「ジャパン・スタイル」を読み解く』)

(注1) プロトコル……ここでは、意味と表記の間に定められた関係、約束事を持つ言語のこと。

(注2) 産土……生まれた土地。

(注3) ドナルド・キーン……アメリカ合衆国出身の日本文学者(一九二二～二〇一九)。

(注4) アンニュイな……もの憂げな。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 16、(b) 17、(c) 18、(d) 19、(e) 20。

(a) ソウグウ

16

- ① 海辺にベツソウを建てる。
- ② シンソウ心理をついた質問をする。
- ③ 周囲をソウゼンとさせる行動に出る。
- ④ ソウダイな景色を眺める。
- ⑤ 大雪でソウナンしそうになる。

(b) シンコウ

17

- ① オビシンを入れて仕上げる。
- ② この服はシンシユク性に富んでいる。
- ③ コンシン会の案内がくる。
- ④ タイシン工事を進める。
- ⑤ 大雨で床下がシンスイする。

(c) シソ

18

- ① ソコクを懐かしく思う。
- ② 住宅のキノ工事が始まる。
- ③ 民事ソシヨウを起こす。
- ④ ソヤな振る舞いを反省する。
- ⑤ 卒業してからソエンになる。

(d) センサイ

19

- ① セツセンが続き勝敗が見えない。
- ② センイの種類を確認する。
- ③ 新しく出た洋服用センザイを試す。
- ④ ウイルスのセンブク期間を調べる。
- ⑤ 飛行機が海上をセンカイする。

(e) ヘイセツ

20

- ① 牧師が礼拝でセツキョウした。
- ② 店頭に立つてセツキヤクする。
- ③ 減量のためにセツシヨクする。
- ④ 大学セツチの条件は非常に厳しい。
- ⑤ そのやり方はあまりにセツソクだ。

問2 傍線部(1)「劇的な方法」とあるが、この説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、21。

- ① 当時の文化先進国であった中国から漢字という言葉を取り入れたこと。
- ② 呪文のようにしか思えないはずの漢字を図形として覚えたこと。
- ③ 異国の文化としての漢字を抵抗なく受け入れ、国家事業として学んだこと。
- ④ 一万から二万あった漢字のすべてを中国語の発音で暗記したこと。
- ⑤ 漢字をもとものと発音とは異なる日本語の音で読むようにしたこと。

問3 傍線部(2)「勅命」の、本文における意味として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、22。

- ① 命がけの事業
- ② 運命共同体
- ③ 天皇の命令
- ④ 革命的な出来事
- ⑤ 特殊な使命

問4 空欄 ア ウ に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、23。

- | | | | |
|---|-------|-------|-------|
| ① | アⅡならば | イⅡただし | ウⅡしかも |
| ② | アⅡしかし | イⅡやはり | ウⅡしかも |
| ③ | アⅡだから | イⅡただし | ウⅡしかし |
| ④ | アⅡならば | イⅡしかし | ウⅡただし |
| ⑤ | アⅡしかし | イⅡやはり | ウⅡただし |

問5 傍線部(3)「画期的な表現革命」とあるが、どのような点が「画期的」だったのか。四十五字以内で説明しなさい。解答番号は、24。

問6 空欄 A に入る四字熟語として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、25。

- ① 前代未聞
- ② 有名無実
- ③ 安心立命
- ④ 新進気鋭
- ⑤ 自由奔放

問7 空欄 B に入る最も適当な言葉を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、26。

- ① 象形文字
- ② 表意文字
- ③ 混合文字
- ④ 異体文字
- ⑤ 表音文字

問8 傍線部(4)「日本に特有なグローバルスタンダードの受け入れ方」とあるが、この内容の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、27。

- ① 「グローバルスタンダード」の長所だけを受け入れ、それを生かしながら、同時に欠点はリフォームしていくというやり方。
- ② 「グローバルスタンダード」を一旦は受け入れ、それを踏襲しつつも、同時に日本文化に合うようアレンジしていくというやり方。
- ③ 「グローバルスタンダード」をそのままの形で受け入れ、それを完全にマスターし、日本の文化の発展に利用していくというやり方。
- ④ 「グローバルスタンダード」から自国文化に合うものだけを受け入れ、それをリミックスし、オリジナルのものにしていくというやり方。
- ⑤ 「グローバルスタンダード」のイメージだけを受け入れ、それをアレンジし、それをもとに新たな文化を創造していくというやり方。

問9 空欄 C に入る最も適当な言葉を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

28。

- ① 「公」と「私」
- ② 「沓」と「素足」
- ③ 「漢」と「和」
- ④ 「スレート」と「白木」
- ⑤ 「伝統」と「革新」

問10 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

29。

- ① 筑前国の志賀島から出土した金印には、当時の日本人には解読不能の文字が刻印されていたために、発見当時はその存在が黙殺されていた。
- ② 応神天皇の皇子は、百済からの使者が持参していた經典に書かれていた漢字に興味を持ち、語学の専門家を日本に呼び寄せることにした。
- ③ 優れた漢字の読み書きの学習テキストである『千字文』を携えて来日した王仁は、日本滞在中にそれを用い、自己の後継者を数多く育成した。
- ④ 川島皇子と忍壁皇子によって編纂された『帝紀』と『旧辞』は、漢字漢文を中国語ではなく日本語として利用した初めての書物となった。
- ⑤ 遣唐使が持ち帰った中国の文物から建築や仏像等の様々な技術を身につけた当時の日本人は、模倣にとどまることなく、そこから独自のものを創造していった。

国語 (20230224) 解答一覽

大問	小問	解答 番号	正解
I	問 1	1	⑤
		2	②
		3	④
		4	②
		5	①
	問 2	6	①
	問 3	7	記述問題
	問 4	8	①
	問 5	9	④
		10	⑤
	問 6	11	②
	問 7	12	③
	問 8	13	④
	問 9	14	③
問 10	15	⑤	
II	問 1	16	⑤
		17	③
		18	①
		19	②
		20	④
	問 2	21	⑤
	問 3	22	③
	問 4	23	②
	問 5	24	記述問題
	問 6	25	①
	問 7	26	⑤
	問 8	27	②
	問 9	28	③
	問 10	29	⑤